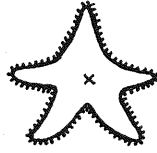


巻頭言

子どもの意見に

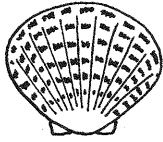
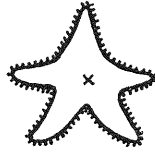
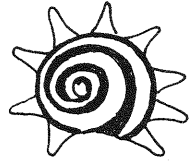
耳を傾ける世の中を創ろう

安部 富士男



子どもに学び、子どもに励まされて生きる

弁当を小脇に園庭に出ると「どこでお弁当、食べるの」と、まりえが寄ってきてきました。「決めてないよ」「よかった。けやき組で食べよう」と手を引かれて部屋に入ると、言葉のでていない貴紀が手招きして自分の前の席を指しています。「ありがとう。貴紀君と一緒に弁当食べられて嬉しい」と席につきました。貴紀はかわいいえくぼを笑顔に浮かべ、両手を小鳥が羽ばたくように振ってから母親手作りのお弁当をおいしそうに食べ始めました。私が弁当を食べながら「貴紀君の笑顔、かわいい」と独り言をつぶやくと、歩が、私と貴紀の顔を交互に見つめてから私の耳に口を寄せ、小さな声で「貴紀君はいつもかわいい顔で笑っているけど、笑っていても悲しいことがあ

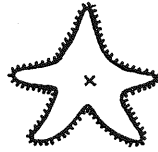
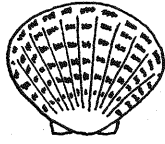


るんだよ」と話しました。歩のことは先週の『園だより』に綴った私の文を思い出していました。

チャボ係の子どもたちが野菜を微塵に刻んで貴紀の餌箱に入れてあげました。貴紀はチャボに餌をあげるのが大好きです。餌箱を持って歩き出した途端、つまずいて餌がこぼれました。貴紀は半身に軽い麻痺が残っています。係の子どもたちは「また、こぼしちゃった」などと言いながらも餌を拾って箱にいいいに入れていきます。友だちの様子を貴紀は笑顔で見つめていました。この笑顔に貴紀の感謝の想いがこめられている、周りの子どもたちも言葉のでない貴紀の笑みに「ありがとう」という想いを汲み取っていると『園だより』に綴りました。しかし、私は、貴紀は笑っていても悲しいことがあるんだという歩のことに私の人間理解の浅さを実感しました。子どもたちに学びながら、子どもも理解・人間理解を深めていこうと念じました。この世に生を受けてまだ五年余の歩が「笑っていても悲しいことがある」という感情の機微をチャボの世話をしながら仲間との交わりを深め、学んでいることを知って感動しました。

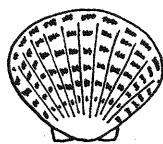
3Cを紡ぐ環境の中で総合活動を豊かに

二十世紀の教育は読書算中心に進められてきましたが、二十一世紀の教育は3Cを織りなす総合活動を土台に創られるといわれています。3Cとは、Care, Concern, Connectionの最初の文字をとった略称です。ウサギに心配り(Care)する、ウサギに



関心 (Concern) を寄せ、ウサギの世話をする仲間やその仕事、ウサギの登場する絵本や歌へと関心が拡がり、ウサギやウサギの世話をする仲間との関係 (Connection) が深まる、3Cが紡ぎ合う総合活動が教師を仲立ちに自然に生まれるように環境を構成する必要があります。そこで、子どもたちは、自主的な活動を創造し、見つめる力を豊かにし、協同的学びを体験していきます。

私たちは、子どもたちの遊び・仕事への取組みを目の当たりにし、親たちと保育や子育てを話し合うことを大切にしています。数人の母親が入園に備えての保育見学にきました。「あんなに高い木に登っていますが危なくないですか」「泥んこになって遊んでいてかわいけれど、お勉強は何時するんですか」などと、矢継ぎ早に私に質問を投げかけていました。そこに、雅人がヒヨコを掌に乗せてやってきました。「不思議。昨日までヒヨコだったのに今日はチャボになっている」と、トサカを指しています。トサカの朱がやや濃くなっています。その時、雅人の腕に黒い小さな虫が止まって嘸みつきました。雅人が「痛い」と顔をしかめると、ヒヨコがその虫をついばんで食べられました。「ヒヨコ、優しい。僕が痛いつて言ったら虫を捕ってくれた。こんなに口が尖っているのにそっと捕ってくれた。皆に教えてくる」と駆け出しました。母親たちの視線が雅人を追ってチャボ小屋に向いています。小屋の前で野菜を刻んでいる子、小屋を掃いている子、水を取り替えている子、母鶏が卵を温めている箱を覗いてヒヨコの鳴き声が聞こえないか待ち構えている子がいます。私は親たちに「教師に



指示されたからというのではなく、ヒヨコがかわいいから関心を寄せてかわいがる、チャボの登場する絵本を読む、チャボ係の仕事を通して仲間との関係が確かなものになっていく、その体験を描いたり物語にしています。幼児は実体験を通して学んでいます。保育室にチャボの絵が貼ってあるから見てください」と話しました。

子どもの意見表明権を軸に子育て、保育・教育を考える

去年九月、国連は「乳幼児期の子どもの権利」という一般所見を採択しました。所見作成にかかわった国連ドイッ代表クレップマン氏は、十月十七日の横浜講演の中で「子どもの意見に学ぶことなしに子どもの権利を保障する『子育て、保育・教育』はできない。赤ちゃんだつて自らの意見をもっている。笑ったり泣いたり、手足を動かしたり、時には下痢をして自分の意見を表明している。泣いている時も、甘えたい時、空腹の時、おしめが濡れている時、おなかが痛む時、眠い時では、泣き方が違う。大人は、泣き方にひそむ意見に学んで赤ちゃんの世話をする。これは一例、どんな場合でも、子どもの意見に学ぶことなしに『子育て、保育・教育』の質を高めることはできない。子どもの権利を守る実践は、子どもの意見表明を大切にすることで実現する」と話されました。私は、この講演に耳を傾け、子ども中心の社会を創る大人の取組みは人間の尊厳を大切に作る社会づくりに連なる、子どもは地球の宝と考えていました。

(安部幼稚園)